



【第9回世界都市フォーラムにおけるY-PORT事業、YUSA、アジア・スマートシティ会議等を紹介するサイドイベントの様子】

ヨコハマの国際事業の
主な動きをお届けする

YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成30年3月8日
【発行】横浜市国際局政策総務課
企画担当 045-671-4710
ki-somu@city.yokohama.jp

クアラルンプールで開催された第9回世界都市フォーラムに参加しました

2月7日から13日にかけて、マレーシア・クアラルンプールで「第9回世界都市フォーラム」が開催されました。2017年に国連人間居住会議において採択された「ニュー・アーバン・アジェンダ」という国際的な指針の達成に向けて、急激に進む都市化をいかに管理するかに関する知識や経験、解決策の共有を目的として隔年で開催されるこの会議に165の国から約22,000人が参加しました。



展示ブースでのPRの他サイドイベントにおいては、「横浜の資源・技術を活用した公民連携による国際技術協力（Y-PORT事業）」を

はじめ、新興国における都市課題の解決を通して国際協力の推進と市内企業のビジネスチャンス創出を目指す（一社）YUSAやアジア・スマートシティ会議等を紹介しました。また、世界銀行TDLC（東京開発ラーニングセンター）と横浜市との連携によるプログラムを紹介した後、フィリピン・メトロセブが横浜市との都市間連携における取組についての発表を行いました。



第22回シティネットジャパンフォーラム「切迫するアジアのごみ問題」開催

シティネット横浜プロジェクトオフィスは2月21日に横浜国際協力センターにおいて第22回シティネットジャパンフォーラム「切迫するアジアのごみ問題」



を開催しました。

今回のフォーラムはアジア地域のごみ問題に焦点を当て、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）のディキャラ・プレマクマラ氏を基調講演者として迎えました。



スリランカのHELP-0、パキスタンのPIEDARというNPOから、シティネット横浜プロジェクトオフィスと連携して行っている、現地の学校・地域でのごみ削減への取組について紹介がありました。また、横浜市教育委員会、特定非営利活動法人WE21ジャパンからは横浜での取組について紹介がありました。



発表の後には登壇者と、約50名の来場者による活発な意見交換が行われました。